

CHOFU

高圧力型石油瞬間給湯器

高圧力型石油小形給湯機

〔温水ボイラー〕



型名 IBF-4552SGH

工事説明書





機器を据付ける前に必ずこの工事説明書をよくお読みの上、正しく据付けてください。なお、この工事説明書は工事終了後、取扱説明書と共に必ずお客様にお渡しください。

特に注意していただきたいこと

●ここに示した事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

| | |
|---|---|
|  警告 | この表示を無視して作業を誤った場合に、作業員またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して作業を誤った場合に、作業員またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。 |

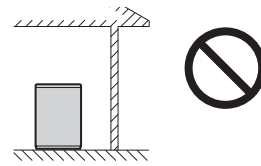
●絵表示には次のような意味があります。

| | | | |
|--|--------|--|------------|
|  | 一般的な禁止 |  | アース接続をすること |
|  | 必ず行うこと |  | 電源プラグを抜くこと |

警告

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事や水道工事はそれぞれ指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守ってください

屋内設置禁止



●必ず屋外に設置してください。火災や予想しない事故の原因になります。

据付けや移動は、販売店または据付業者が行ってください

家庭用以外の使用禁止

●この機器は家庭用です。業務用に使用すると法令違反になります。

●お客様ご自身で据付けをされ、不備があると火災や感電の原因になります。

注意

次の場所には据付けない

●火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定な物を載せた棚などの下
- 可燃性ガスや腐食性ガスの発生する場所、またはたまる場所 (マンホール・排水口などに近い場所)
- 燃焼に必要な空気を取入れる空気取入口のない場所、または換気が行えない場所
- 付近に燃えやすいものがある場所 ●排水のしにくい場所
- 階段・避難口などの付近で避難の支障となる場所 ●浴室 ●湿気の多い場所
- 大量の雨水がまとまってかかる場所 (雨樋のないひさしや窓用目隠しルーバーなどの下になる場所)

作業時は保護具を着用する

●作業時は手袋など保護具を着用してください。

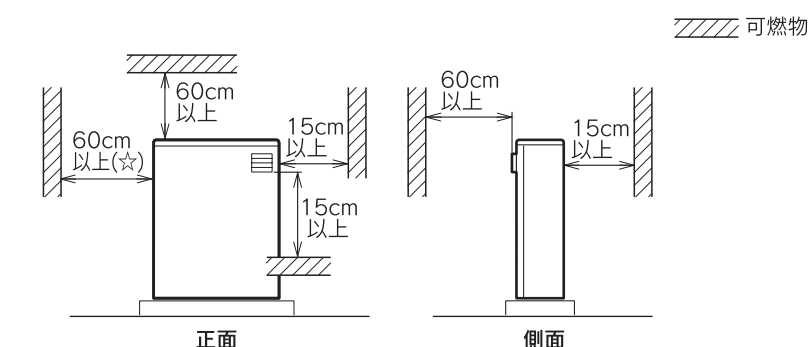
換気扇や換気システムの吸込口付近には、機器本体は設置しない

●排ガスを室内に吸い込み、健康を害するおそれがあります。

可燃物との距離を離す

- 機器は屋外の開放された場所に設置してください。
- 機器の周囲に可燃物がある場合は図の離隔距離を守ってください。防熱板、不燃材の場合は離隔距離が緩和されますので、各地域の火災予防条例を参照してください。
- 据付ける際には配管のためのスペースを考慮に入れてください。

標準据付例



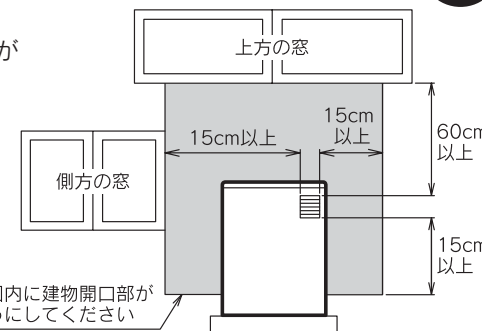
(☆)印の寸法は配管・サービススペースとして必要な寸法です。

囲い禁止

●機器や排気部を波板などで囲わないでください。不完全燃焼や火災の原因になります。

排気部と建物開口部の距離を離す

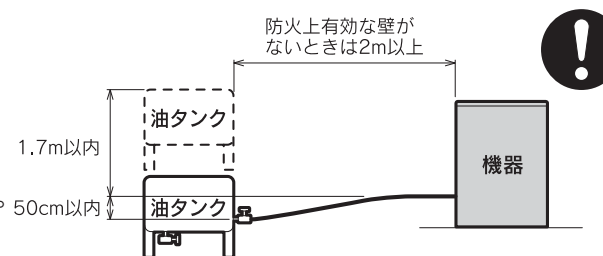
●できるだけ周囲に窓などの建物開口部がない場所に設置してください。もしあるときは、図の範囲内に建物開口部がない場所に設置してください。特に隣家の窓には注意してください。



【建物開口部】
建物開口部とは建物に設ける窓、ドアなどで可動して開口するもの(引違い窓、開きドアなど)をいい、明り取り用のはめ殺し窓、片引き窓の固定されている部分ではありません。

油タンクとの距離を離す

- 油タンクは機器より2m以上離して設置するか、防火上有効な遮へいを設けてください。
- 油タンクは不燃材でできた水平な基礎の上に設置してください。



アース工事をすること

●アース工事を確実に行ってください。故障や漏電のときに感電するおそれがあります。

ゴム製送油管の屋外使用禁止

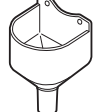
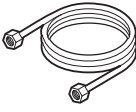
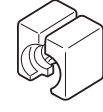
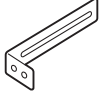

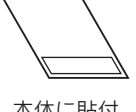
●屋外では必ず金属管(銅管など)を使用し、ゴム製送油管は屋外で絶対に使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

送油管取付け時の確認

●既設の油タンクを使用する場合は、送油管を機器に取付ける前に油タンクから灯油をバケツなどの容器で受け、油タンク内に水・ゴミ・錆などがいないことを確認してから取付けてください。油タンク内に水・ゴミ・錆などがたまっていると機器が故障する原因になります。

付属品の確認

●梱包されている付属品に不足がないことを確認してください。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |  |
| 排水用ホッパー | 送油管 | 給水口保温材 | 転倒防止金具 (木ねじ 2本 フィッシャープラグ 2個) | 取扱説明書 (保証書付) 工事説明書 | 所有者票袋 (所有者票 保護シール 特定保守製品説明書) |

※製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

別売部品

この機器には別売のリモコンセットが必要です。台所リモコンを取付けないと操作できません。(増設リモコンを追加することができます。)

- リモコンセット
〔IR-4〕(リモコン CMR-2101 ・リモコンコード)
〔IR-4V〕(リモコン CMR-2101V ・リモコンコード)
〔IR-6〕(リモコン CMR-2202 ・リモコンコード)
- 増設リモコン〔CMR-2200S〕
- リモコンコード〔RK-3P〕
- 転倒防止金具延長アダプタ
- 油切れ予告装置〔OC-3〕

据付け

●この機器は「建築基準法施行令」に基づき転倒防止などの措置を講ずる必要がありますので、「工事説明書」に従って機器を建築物に固定してください。

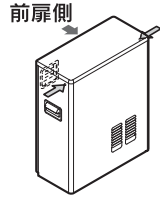
「特に注意していただきたいこと」の項も必ず確認してください。

1 機器の設置

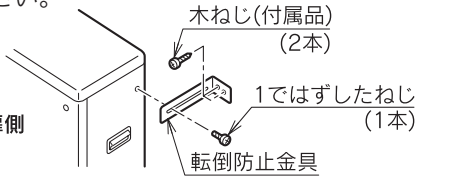
- 機器は必ず水平に置かれていることを確認してください。(水準器などで確認してください。)傾いていると対震自動消火装置が誤動作します。傾いている場合は機器底面のアジャストボルトで調整してください。
- 機器をコンクリートなどで埋め込まないでください。
- 設置床面は凹地にしないでください。水やゴミがたまって機器の不具合発生や故障の原因になります。

2 転倒防止金具の取付

1. 転倒防止金具を取付ける部分のねじ(1本)をはずします。転倒防止金具取付用のねじは機器の左右側面後方に各1本あります。※壁からの離隔距離は「特に注意していただきたいこと」の「可燃物との距離を離す」を参照してください。壁から175mm以上離れる場合は、別売の転倒防止金具延長アダプタ(壁から325mmまで)を使用してください。



2. 1ではずしたねじ(1本)で転倒防止金具を取付けます。
3. 転倒防止金具を付属木ねじ(2本)で壁に固定します。

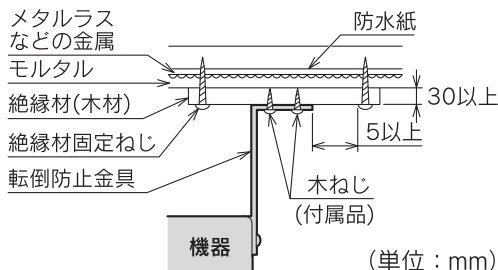


※イラストは機器の右側につける場合です。

- コンクリート、モルタルなどの壁に固定する場合は、付属のフィッシャープラグを使用してください。

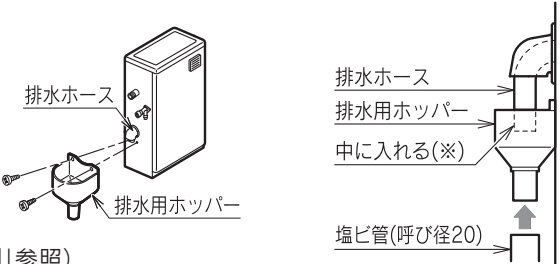
| 下穴径 | 穴深さ |
|-----|------|
| 6mm | 40mm |

- 壁がモルタルのときは、壁内の金属に木ねじ(付属品)があたらないように注意して施工してください。
- メタルラス張り・ワイヤラス張り・金属板張りなどの壁に取付けるときは、これらの壁と機器が電氣的に接触しないように設置してください。(電気設備に関する技術基準)



3 排水用ホッパーの取付け

1. 付属の排水用ホッパーを機器左側面の排水ホース下のねじ(2本)をはずして固定します。
2. 排水用ホッパーに市販の塩ビ管(呼び径20)を接続して排水溝まで配管します。



(『水道配管』の「給水・給湯・排水配管例」参照)

※排水ホースは排水のとびはね防止のため排水用ホッパーの中まで入れてください。

4 油タンクの設置

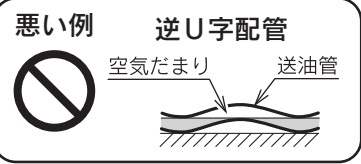
- 風通しがよく、できるだけ直射日光があたらない場所に設置してください。
- 油タンクの容量が200リットル以上のときは消防署へ「危険物の貯蔵・取扱届」が必要です。ただし個人の住居に設置するときは不要となることがあります。詳しくは各地域の火災予防条例を参照してください。(所轄の消防署に確認してください。)
- 油タンクには必ずドレン栓を設けてください。

5 送油管の取付け

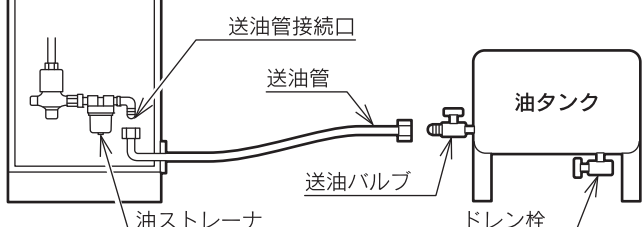
注意

- 接続部から油漏れがないように注意してください。
- 送油管が機器内の部品に接触しないように接続してください。

- 送油管が途中で逆U字型になって、空気だまりができないようにしてください。
- 送油管内のゴミなどを取除いてください。
- 送油管を送油管接続口にしっかりと接続してください。機器より油タンクの位置が低いときは接続が不完全でも油漏れは起きませんが、エアがみによる燃焼不良が発生します。

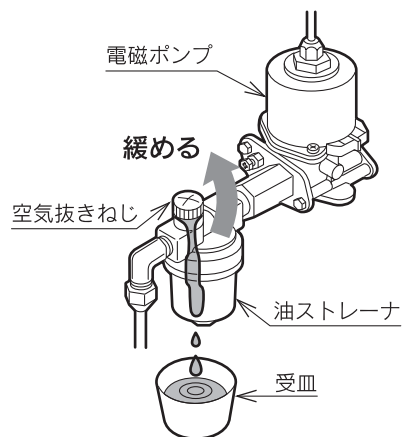


- 油タンクに送油バルブ(油タンク付属品)を取付けて、送油管を接続してください。
- 屋外では必ず金属管(銅管など)を使用し、ゴム製送油管は絶対に使用しないでください。



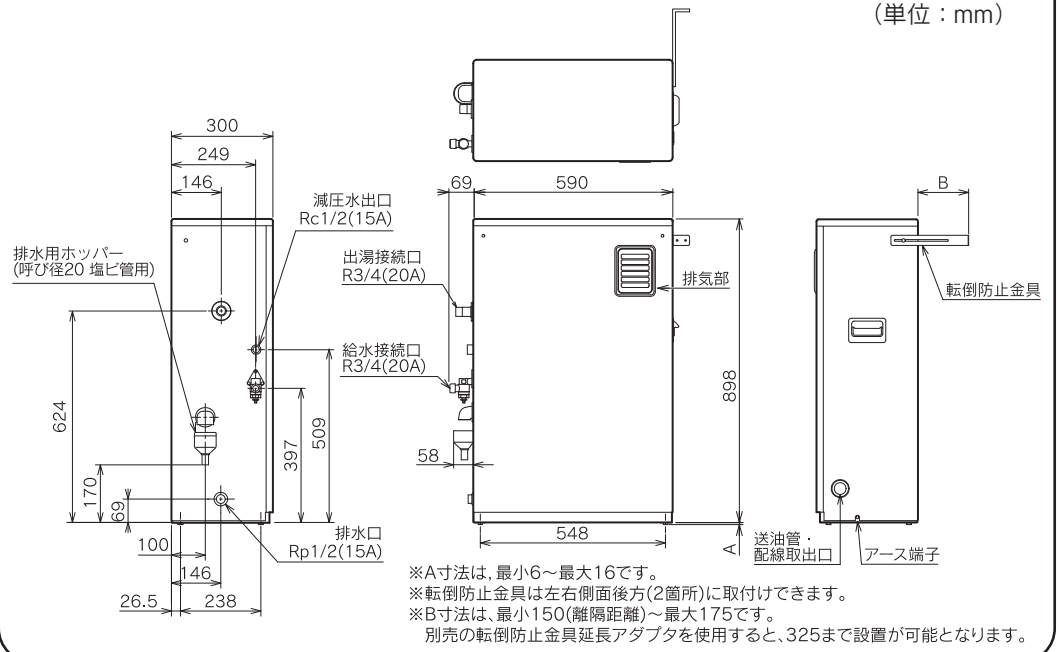
6 送油経路の空気抜き

1. 油ストレーナの下に受皿などを置きます。
 2. 油タンクの送油バルブを開け、油ストレーナの空気抜きねじを緩めて、灯油が連続して出てきたら空気抜きねじを締めます。
 3. こぼれた灯油をふきとります。
- 試運転時に油ストレーナの空気抜きを行っても、電磁ポンプ内の空気が抜けるまで振動音が出たり、点火しないで警報になったりすることがありますが、故障ではありません。警報になったときはリモコンの運転スイッチを一度押し「切」にして再度押し「入」にしてください。



外形寸法図

(単位: mm)



※A寸法は、最小6～最大16です。
 ※転倒防止金具は左右側面後方(2箇所)に取付けできます。
 ※B寸法は、最小150(離隔距離)～最大175です。
 別売の転倒防止金具延長アダプタを使用すると、325まで設置が可能となります。

水道配管

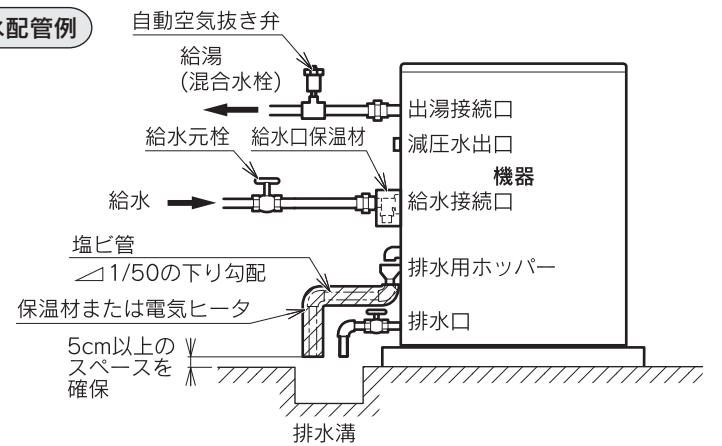
注意

- 配管工事は各市町村水道局(課)の指定工事店に依頼し、規定に従って工事を行ってください。
- 配管材料、シール材などは各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。
- 配管はすべて保温してください。
- 出湯配管は脱酸銅管またはステンレス管をおすすめします。塩ビ管は使用している間に破裂するおそれがあります。また、鋼管は赤錆発生の原因になりますので、使用しないでください。
- この機器は上水道用です。給水には上水道を使用してください。

配管上の注意

- この機器は減圧弁・逆止弁・逃し弁を内蔵しています。
- 上水道に直結するときは、水道局(課)の認可が必要です。詳しくは所轄の水道局(課)に確認してください。
- 配管は取りはずしができるような部材を使用して接続してください。
- 配管を機器に接続する前に必ず水を流して配管内のゴミを排出してください。
- 配管を機器の接続口と接続する場合は、必ずスパナ・パイプレンチなどを接続口にかけて、機器に無理な力がかからないように注意して接続してください。
- 機器内に空気がたまらないように、できるだけ出湯側に自動空気抜き弁を取付けてください。
- 混合水栓はその混合水栓の仕様に従って接続してください。
- やけど防止のためサーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。
- 排水配管の末端は排水溝のあふれ縁より5cm以上のスペースを確保してください。排水溝内には入れないでください。
- 絶対に減圧水出口に上下水道やポンプ、太陽熱温水器を接続しないでください。
- 太陽熱温水器を接続するときは直圧式の太陽熱温水器を給水側に接続してください。

給水・給湯・排水配管例



給水配管

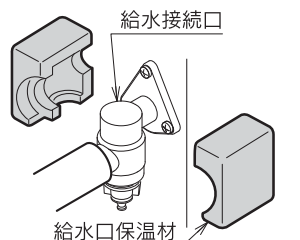
- 給水管は水道管から直接配管してください。
- 機器の給水接続口の近くには必ず給水元栓を取付けてください。

出湯配管

- 機器は使用頻度が高い場所に近くに取り付け、出湯配管はできるだけ短くしてください。
- 混合水栓は通水抵抗の少ないもの、またシャワーヘッドは圧力損失の少ないものを使用してください。
- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管にならないようにしてください。
- 空気だまりができないような配管にしてください。

配管の凍結予防

- 保温は水漏れ確認後に行ってください。
- 保温材の端面は防水処理を行ってください。
- 給水接続口を給水口保温材(付属品)で保温してください。
- 凍結のおそれのある地域では市販の電気ヒータを配管やバルブ類に巻いて、十分な保温を行ってください。保温が充分でないと凍結予防処置を行っても効果がありません。
- ホッパー排水配管が凍結するおそれのある地域では、その地域に応じた保温処置(保温材の施工または配管用電気ヒータの取付け)を行ってください。ヒータを使用する場合は、排水用塩ビ管に対応したヒータを使用し、ヒータの工事説明書に従って取付けを行ってください。
- 注意: 適正なヒータを使用しない場合、発火の可能性があります。
- 水抜きが簡単にできるように配管し、もしできないときには配管の途中にドレン栓を取付けて水抜きができるようにしてください。
- 凍結予防工事を完全に行っても、お客様が凍結予防を実行しないと凍結することがあります。取扱説明書に従い、実際に操作して説明してください。



リモコンの接続

警告

- リモコンコードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部・ヒータに接触しないように配線してください。
- 余ったリモコンコードは機器外でまとめ、機器内に入れないでください。また、リモコンコードを切断して使用するときは、樹脂スリーブ付のY形端子を使用してください。

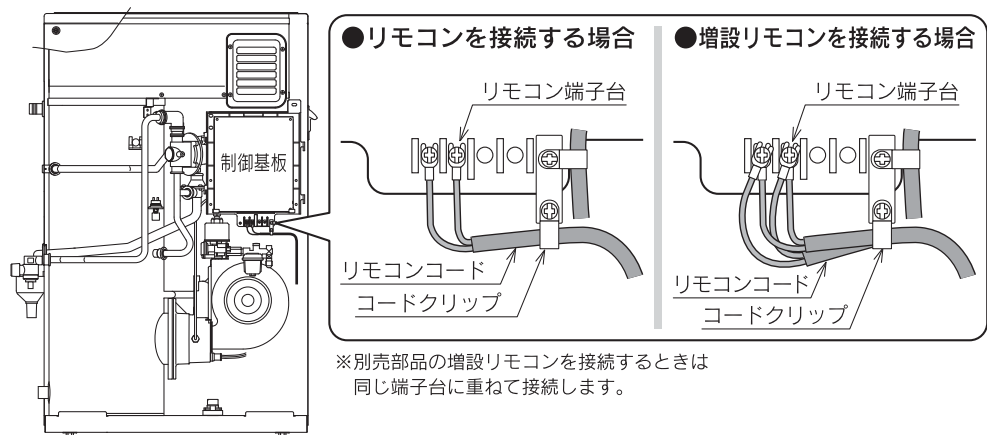
- この機器には別売のリモコンセットが必要です。台所リモコンを取付けないと操作できません。また別売の増設リモコンが接続できます。
- 機器とリモコンの接続は小勢力回路の工事に該当し、電気工事士の資格がなくても工事はできますが、電気設備に関する技術基準に従って工事を行ってください。
- リモコンコードは電源プラグを差し込む前に接続してください。
- リモコンの表面パネルには保護フィルムが貼ってあります。工事完了後は必ずはがしてください。
- 電動ドライバーは絶対に使用しないでください。端子のねじ穴が破損して接触不良をおこすおそれがあります。

リモコンの取付け

リモコンの取付けは、リモコンセット付属の「工事説明書」をご覧ください。

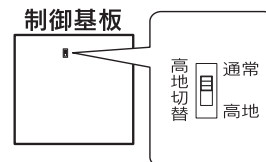
機器との接続

1. 電源プラグがコンセントに差し込まれていないことを確認します。電源プラグを差したままリモコンコードを接続しないでください。
2. 前パネルのねじ(2本)をはずして前パネルをはずします。
3. 機器側面の送油管・配線取出口から通してリモコンコードを機器内に入れます。
4. リモコンコードをリモコン端子台に接続します。
リモコンコードは無極性ですので＋はありません。
ドライバーなどが他の電子部品に接触しないように注意してください。
5. リモコンコード、コードクリップを図の位置に取付けてしっかり固定します。
リモコンコードを軽く下に引張り、しっかり固定されていることを確認してください。
6. 前パネルを元通りに取付けます。



高地で使用するときの処置

- 標高1,000～1,500mの高地で使用するとき、制御基板上の高地切替スイッチを「高地」に切替えてください。お買い求め時は「通常」になっています。
- 高地切替スイッチは電源プラグを差し込む前に切替えてください。
- 標高1,500mを超える場所では使用できません。



据付工事後の点検・確認

- 据付工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

機器およびその周辺

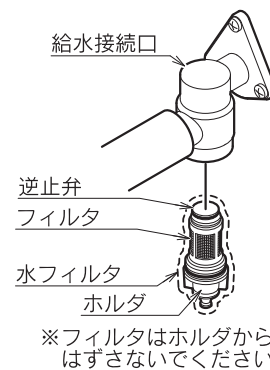
- 可燃物との距離および防火上の処置は充分ですか。
- 点検・修理など保守・管理上必要なスペースがありますか。
- 設置条件を満たしていますか。
- 機器や配管の接続部に水漏れはありませんか。
- 機器・油タンク・送油経路に油漏れはありませんか。

電気配線工事

- 機器およびリモコンへの配線は、指定された工事で行われていますか。
- D種接地工事は行われていますか。

水フィルタの掃除

- 給水接続口の水フィルタをはずし、フィルタにつまっているゴミを取除いて、元通りに取付けてください。



試運転

- 試運転はお客様とご一緒に必ず行ってください。

1 試運転

1. 取扱説明書の「据付け」の「試運転」に従って行ってください。
2. 正常運転することを確認してください。
 - ・バーナーの点火や消火は確実に行われますか。(リモコンの燃焼表示で確認してください) 試運転時は内部の防錆油が燃える(気化する)ため、煙や臭いが出ることがありますが、しばらく燃焼すると防錆油が燃える煙や臭いは出なくなります。
 - ・給湯温度の調節はできますか。お湯の温度が変化することを確認してください。

2 お客様がすぐに使用されない場合

- 試運転後、機器や配管内に残った水をお客様が使用されるまで放置すると、凍結して機器が破損したり、熱交換器内の水が変質したりすることがあります。必ず機器内の水を抜いてください。(取扱説明書参照)

電気配線

警告

- 電源コードの届く範囲にコンセントがないときは、電力会社の指定工事店に依頼し、所定の電気配線をしてください。絶対に電源コードを切断して延長しないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードは束ねたまま使用しないでください。また、余った電源コードやアース線は機器内に入れないでください。火災の原因になります。
- 電源コードが熱交換器・バーナーなどの燃焼部・ヒータに接触しないように配線してください。

使用電源

- 電源は必ずAC100Vを使用してください。絶対に200Vに接続しないでください。機器が破損します。

電圧降下

- 電圧が降下すると故障・誤動作の原因になります。

電源周波数

- この機器は50Hz・60Hz共用です。

接地(アース)

- アース工事を確実に行ってください。アースが不完全な場合は、感電するおそれがあります。
- 機器の側面にアース端子があります。電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、D種接地工事を行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。

引き渡し

お客様への説明

- 取扱説明書に従い取扱方法をお客様に説明してください。
 - 保証書に必ず必要事項をご記入の上、お客様にお渡しください。
(保証書は取扱説明書の巻末です。)
- また、取扱説明書に従い「アフターサービス」について説明してください。

所有者登録

- この機器は消費生活用製品安全法の『特定保守製品』に指定されています。
お客様に「法定説明事項」をご説明の上、所有者登録(所有者票(はがき)の返送)について説明してください。

廃棄するときの注意

- 機器を廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。